

令和7年度 府中町立府中小学校 学校評価自己評価表（最終）

学校教育目標	自ら学び、共に伸びる	経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（府中小学校の使命） ◎生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造する人づくり 【ビジョン】 ☆目指す子供像…育てたい資質・能力 ○目標をもち、粘り強く挑戦できる子 ○自ら考え、よりよく判断し、表現できる子 ○他者と関わり合うことができる子 ☆目指す学校像 ○児童、教職員、保護者、地域が信頼で結ばれ、安心して学び、働き、協力できる学校 ☆目指す教職員像 ○子供に深い教育的愛情（根っこを見出し、育てる教職員） ○強い探求心（学び続ける教職員） ○高い同僚性（チームで働く教職員）
--------	------------	--------------------	--

ビジョンの（中期経営目標）実現に向けての現状（進捗状況）と今年度の位置付け	令和7年度は、学校経営理念（ビジョン）「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造する人づくり」、学校教育目標「自ら学び、共に伸びる」とする。 目指す子供像を「目標をもち、粘り強く挑戦できる子」「自ら考え、よりよく判断し、表現できる子」、「他者と関わり合うことのできる子」とし、「自分を律する力」、「考え、表現する力」、「人と関わる力」の育成を目指していく。 教職員の強い組織づくりに向けて、次期主任の育成や一人一役の継続と正副組織力の向上を目指し、人材育成を行っていく。 教職員の組織力の向上については、これからの教員に求められる資質・能力の向上と合わせて、人が育つ教職員集団を創っていく。
---------------------------------------	--

5月の現状値から目標値を設定→7月の達成値は実測値÷目標値×100 それを、達成値を評価し、7月の評価結果から目標値の修正かける。
12月の実測値を入力→12月の達成値は、実測値÷最終目標値×100→最終評価を行う。



評価計画（中期経営目標を設定して3年目）

評価計画（中期経営目標を設定して3年目）						A（95%以上）		B（94%～80%）		C（79%～65%）		D（65%未満）	
中期（3年 間）経営目標	短期（今年度） 経営目標	目標達成のための方策	評価指標	5月 現状値 （%）	目標値	評価結果			修正 目 標 値	評価結果			
						7月				12月			
						実測値	達成値	評価		実測値	達成値	評価	
I 目標をもち、 粘り強く挑 戦できる・自 ら考え、より よく判断し、 表現できる・ 他者と関わ り合うこと のできる子	○粘り強くやり切 る力 ○人と関わる力 【生徒指導部】	（1） 基本的な生活習慣・ 学習規律の確立 （2） 道徳と特別活動の連 動・充実 （3） 異年齢集団活動の充 実	・児童アンケート「人の話を聴 く、自分から進んで挨拶をす る、無言掃除、時間を守る の4つのことをがんばって 生活をしている。」の肯定的 回答を5月の現状値よりあ げる。 ・教職員アンケート「児童は学 校の約束（きまり）を守って 生活をしている。」の肯定的 評価を5月の現状値よりあ げる。 自分の学級は、「仲間と安心 して過ごすことができる。」 「学校の中で自分が認めら れる場がある。」の2項目の 肯定的回答を5月現状値よ りあげる。	92.5%	現状値よ りあげる	92%	99.4%	A	現状値 よりあ げる。	90.1%	97.7%	A	
				83.8%	現状値よ りあげる	84.3%	100%	A		77.5%	92.4%	B	
				91%	現状値よ りあげる	90.7%	99.6%	A		89.4%	98.2%	A	
	○考え、表現する力 【教務部】	（1） 読書活動 （2） ブックトーク ビブリオバトル （3） 各教科での発表・表現 活動	・児童アンケートで「本を読む ことが好きである。」の肯定 的評価を5月現状値より、 5%上げる。 ・語彙力を測定するためにテ ストなどを活用し、目標値を 超える児童の割合を90% 以上とする。	82.2%	87.2%	82%	94%	B	現状値よ り上げ る。 現状値を 継続さ せる。	81.1%	93%	B	
				-	85%	89%	104%	A		83.1%	97.7%	A	
	○考え、表現する力 ○人と関わる力 【研究部】	（1）「府小っ子学びのスタ イル」の定着 （2）「自ら学ぶ力」の育成	・児童アンケート「授業中 友達と考えを交流して自分 の考えを広げたり深めたり している。」「自分で計画を立 てて学習している。」の2項 目の肯定的評価について9 0%以上とする。 ・教職員アンケート「『自ら学 ぶ力』の育成を意識して単 元・授業づくりをし、粘り強 く学ぶ児童の育成を目指す」 の項目の肯定的評価につい て現状値を継続させる。	88%	90%	87.9%	97.7%	A	現 状 値 を 継 続 さ せる。	85.5%	95%	A	
				96%	継続	96.8 %	100%	A		97.5%	101%	A	
	○粘り強くやり切る 力 【健康安全部】	（1） アクティブチャイル ドプログラム （2） メンタルヘルス教育	・児童アンケートで「体育授業 で目標を意識して粘り強く 取り組んでいますか」「運動 （体を動かす遊びを含む）や スポーツをすることが好き ですか。」の肯定的回答を5 月現状値より上げる。 ・教職員アンケートで「体育の 授業で児童が目標を意識し て粘り強く取り組めるよう 指導していますか」「体育の 授業にACPを取り入れてい ますか。」肯定的回答80% 以上にする。 ・就寝1時間前にメディア機 器をやめることができてい る児童70%以上にする。	90.7%	90.7% 現状値をあ げる	90.6%	99.8%	A	現 状 値 を 上 げる 現 状 値 を 上 げる	90.4%	99.6%	A	
				91.7%	91.7%現 状値をあ げる	91.7%	100%	A		90.1%	98.2%	A	
				80.6%	85%	81.2%	95.5%	A		87.5%	102%	A	
63.2%				70%	61.8%	88.2%	B	62.9% （45.1%） 保護者		89.8% （64.4%）	B （D）		

Ⅱ 教育的愛情をもつ・学び続ける・同僚性の高い教職員	○人材育成と業務改善の推進	(1) 一人一役で自分の仕事についての企画、提案、進捗状況の報告、実践、振り返りの報告、改善案まで責任をもって行う。	・「学校経営目標の達成に向けた取組の立案に自分の役割を意識して参画している」	93.5%	95%	93.7%	98.6%	A	95%	95%	100%	A
		(2) 分掌部や学年部の協力体制を整え、安心して成長し合える職場づくり	・「学年・分掌組織の中で相談しやすい雰囲気があり、チームとして働いている」と感じる教員の割合を現状値より上げる。または維持する。	→	85%	93.7%	110%	A	98%	97.5%	102%	A
			・「子供と向き合う時間を大切にし、教員も共に学び続けようとしている」の肯定的解答を80%以上にする。	80%	100%	90.9%	90.9%	B	95%	91.7%	96.5%	A
			・学校の教育方針や教育活動に満足と回答する保護者を85%以上にする。	－	85%	91.2%	107%	A	90%	92.8%	103%	A



成果・課題				
教務部	研究部	生徒指導部	健康安全部	総務部
(1) 読書活動 (2) ブックトーク ビブリオバトル ○ブックトークやビブリオバトルなどの取組を計画的に実施し、児童が本に親しむ機会を継続して設定することができた。 ●児童アンケート「本を読むことが好きである」の肯定的回答が、5月当初（82.2%）から12月（81.1%）にかけて微減した。これは「本が好きか嫌いか」という児童の心情に働きかけた結果と考えられる。今後は、学習や生活において「なぜ本を読むことが必要なのか」「本を読むことがいかに大切か」という読書の必然性に迫る指導を工夫し、目的意識を持った読書活動へと改善を図る必要がある。 (3) 各教科での発表・表現活動、語彙力の向上 ○語彙力を測定するテスト等の活用により、12月時点でも89.4%と、基礎的な力の定着が概ね図られている。 ●「自分の考えを表現する力」については、研究部の課題とも関りがある。語彙力の育成だけでなく、それを使って自分の考えを構築・発信する場面を各教科で意図的に設定していく必要がある。	(1) 「府小っ子学びのスタイル」の定着 ○今年度は特に「自分で」主体的に学びに向かえるような授業づくりを進めてきた。「○○の方法でやってみたい」「～～を考えてみたい」「□□□を調べたい」と自己選択、自己決定しながら学習を進める姿が多く見られた。 ●自分の考えを伝える力がまだ不十分で、「みんなで」考えを交流する土台に乗れていない児童がいる。 (2) 「自ら学ぶ力」の育成 ○各学年部の授業提案の中で、児童が「自ら学ぶ」ための手立てが多く考えられており、授業改善が進んだ。 ○「自学ノート」の取組は、意欲的に取り組む児童もおり、友達のノートを見合う活動は楽しみにしている児童が多い。 ●「自分で計画を立てて学習している」の肯定的評価はあまり高くない学年がある。児童の評価と実態が合っていない部分もある。	(1) 基本的な生活習慣・学習規律の確立 ○挨拶・掃除・着ベルに重点を置き、生活目標に掲げて児童に意識させることができた。 ○挨拶ロードの取組は挨拶ボランティアとして参加した児童は主体的に挨拶をすることができた。 ○生徒指導上の児童の課題に応じて、各学年で学年集会を開き、統一した指導を行うことができた。 ●人の話を聴く、廊下歩行、名札の着用、掃除については課題がある。アンケート結果では、児童と教員との意識のズレがある。(児童アンケート肯定的回答90.1%、教員アンケート肯定的回答77.5%) ●生活目標の取組が学級により、差異があった。教員の指導の足並みがそろっていない。 (2) 道徳と特別活動の連動・充実 ○道徳教育プログラムを1・2学期に実施することで学期始めによいスタートをきることができた。 ○特別活動に係る研修を行うことで、係活動や学級会の進め方など教室での実践で参考になった。 ●次年度の向け、今年度の道徳教育プログラムの取組を整理していく必要がある。 (3) 異年齢集団活動の充実 ○縦割り給食・縦割り遊びは給食のメニューを事前に配慮していただいたため、配膳しやすく、余裕をもち、遊びの時間をとることができた。 ○ペア学年でのロングタイム昼休憩では、低学年の児童は楽しく過ごすことができた。 ●縦割り掃除の回数が少なく、前期の班のメンバーの名前を覚える前に後期の縦割り班に変わってしまうため、異学年と関わる場になっていない。 ●縦割り掃除での活動が異学年の交流になっていない班があった。	「粘り強くやり切る力」の育成 ＊ACPの取り組み ○「府小っ子 ACP メニュー・説明書」を各クラス（学年）に配布した。資料を基に実施可能な単元を事前に検討し、実行することができたため、昨年度と比較するとより多くの児童がACPに取り組むことができた。6年部では教科担任制という特性を生かし、ACPを実施する時間が増えた。 ○全校朝会で児童・教職員全体に「体育の時間に運動が楽しいと感じる時間を設ける」という目的を共有することができた。 ●準備の都合上、ACPが実施できる単元が限られる。 ●「体を動かすことが楽しい」という質問項目に対して、否定的な回答を示している児童は一定数在籍しており、固定化されている。ACPのみでは課題解決するのは困難である。 ＊メンタルヘルス教育 ○全学年に養護教諭が教室に行き、メンタルヘルス教育を実施することができた。 ○就寝1時間前にメディア機器をやめることについては、生活リズムカレンダー実施期間中は75%の児童ができている。 ●保護者アンケートで就寝1時間前にメディア機器をやめることができているという質問項目の肯定的回答は45%である。家庭の協力が不可欠であることを考えると、肯定的回答が低い。 【その他健康教育上の本校児童の課題】 ・体力の低下 ・けがが多い	○一人一役の取組が定着しつつあり、教職員が自分の役割を自覚して主体的に動く姿が日常的に見られるようになった。 ○校内研修や示範授業では、学年全体で互いを支え合いながら授業づくりに取り組む場面が増え、学び合う文化が確実に根付いてきている。協議の場においても、良さや課題を積極的に取り上げながら、学校全体の課題を自分ごととして捉え、当事者意識をもって発言する姿が多く見られる。 ○学校行事についても担当分掌だけでなく教職員全体で支え合いながら運営する意識があり、組織としての一体感が高まってきている。 ○暮会前のミニ研修では、職員が主体となって個々の実践を共有する機会が増え、学びの循環が生まれている。 ○生徒指導上の課題が生じた際には、関係者が迅速に集まり方向性を検討できる仕組みが機能しており、組織としての対応力も向上している。 こうした積み重ねにより、相談しやすく、互いの成長を支え合う職場環境が形成され、教職員の学び続ける姿勢が学校文化として定着していると考えられる。地域や保護者との関係においても、PTA 活動や CS 活動の推進により、ゆるやかではあるが学校を応援する体制が広がり、学校と地域が協働する場面が多々ある。 ●毎月、四部会や企画などの会議を重ねているものの、教育活動の進め方やねらいの共有に違いが生じる場面があり、学校全体として方向性をそろえ、分掌や学年が連動して子供を主体とした取組を進めていくための仕組みづくりが必要。 ●一人一役の取組により、教職員が役割に責任をもって取り組む姿は見られる一方で、何をどう進めるか迷う場面や、業務の性質上、特定の教職員に負担が集中する場面もある。役割の進め方や支え方について共通理解を深め、業務量の偏りを見直しながら、より持続可能な体制を整える。 ●PTA や CS 活動を支える人材が固定化しており、継続的に協働を進めていくための体制づくりの課題。一方で、地域のボランティアや町内会などに協力をお願いすると快く引き受けてくださる方も多く、地域と学校が支え合う関係は着実に広がっている。

改善方策				
教務部	研究部	生徒指導部	健康安全部	総務部
（１）読書活動 （２）ブックトーク ビブリオバトル ・「本が好き」という心情的な指導に加え、学習や生活において読書の「必然性」を感じさせる指導に取り組んでいく。 ・各教科の単元計画の中に、並行読書や成果としての表現を効果的に位置づけ、「課題解決のために本が必要となる場面」を意図的に設定する。 ・競うことなく、ブックトークやビブリオバトルのテーマに、「自分の考えを広げる」といった目的意識をもたせる視点を意識させる。 （３）各教科での発表・表現活動、語彙力の向上 ・習得した語彙を実際の表現場面で「使いこなす」ことができるよう、各教科において「自分の考えをもち、表現する場」を単元に設定する。 ・児童の成果物を定期的に掲示し、校内で共有することで、表現することへの自信や国語的な表現力を育む。 ・語彙テストの結果を分析し、学年ごとの課題に応じて次年度の目標設定に生かし、重点的な指導事項を明確にして、実践する。	（１）「府小っ子学びのスタイル」の定着 ・「自分で」考える力をベースに、「みんなで」考えを交流して自分の考えを広げたり深めたりすることに重点をおいて取り組んでいく。 ・自分の考えを伝える力を身に付けるために、実態に合わせて言語活動を取り入れる。 ・「話し合いの仕方」や「話型」について系統的に指導する。 （２）「自ら学ぶ力」の育成 ・「自学ノート」の取組は継続し、自ら課題を設定し、調べたことを効果的にまとめる力を伸ばすよう指導する。	（１） 基本的な生活習慣・学習規律の確立 ・全教職員共通理解のもと、指導方針を統一し、学習規律の徹底を図る。（チャイムスタート、正しい姿勢、学習用具の準備・片付け） 「いつでも、どこでも、その場で、同じ声かけ」（教職員の指導のズレやブレがないようにしていく） ・「時間いっぱい掃除」「だまって掃除」「ピカピカ掃除」を目標に位置づける。 ・掃除の仕方について委員会による発信をし、児童に理解させる。 ・年間通して挨拶ロードの取組を行う。ＰＴＡのさわやかあいさつ運動と協働させる。 ・生徒指導の実践上の４視点を踏まえた授業づくり、集団づくりをする。 ・日々の授業、活動の中で児童に適宜振り返りをさせ、教職員も児童に適切に評言をしている。 （２） 道徳教育プログラムに係るカリキュラム・マネジメントを行う。 （３） 異年齢集団活動の充実 ・ペア学年でロングタイム昼休憩を過ごす。 ・年間を通して縦割り班は同じメンバーにする。 ・縦割り掃除など縦割り活動での目標を低・中・高学年ごとに設定する。 ・縦割り掃除を開始する前に各班のリーダーに掃除の仕方について確認する場を設ける。	＊ＡＣＰの取り組み 体力低下への対応や「運動することが楽しい」と感じる児童を増やすための取組を検討する必要がある。現在、『体づくり運動の充実』に向けた計画を立案中であり、来年度は全学年で取り組める体制を整えていく。 ＊メンタルヘルス教育 生活リズムカレンダーの内容を、メディア機器の使用に特化した取組へと変更する。 家庭で取り組んだ内容を記入してもらい、紹介する機会を設けるなど、家庭が協力しやすい仕組みづくりを進めていく。 「就寝１時間前にやめる」ことが難しいと感じている児童へのステップとして、３段階に変更することを検討している。 ① メディア機器を使用しない（ノーメディア週間） ② メディア機器を就寝１時間前にやめる。 ③ メディア機器を就寝３０分前にやめる。	● 教育活動の方向性やねらいを共有し、分掌・学年が連動して子供主体の取組を進められる体制を整える。 四部会や企画会議の中で活動の目的や子供主体の視点を確認する時間を設け、学年・分掌間で意図や情報を共有する仕組みを高める。 ● 一人一役を支える仕組みを強化し、役割の進め方や判断のポイントを共有して相談しやすい環境をつくる。 主任・副主任制の役割を整理し、支え方を見直すことで、必要に応じて助言やサポートが得られる体制を整える。 ● 業務量の見える化を進め、負担の偏りを防ぐために分担を見直し、持続可能な働き方を検討する。 年間の業務の流れを整理し、繁忙期や負担の集中が生じやすい部分を把握した上で改善を図る。 ● ＰＴＡ・ＣＳ活動の人材固定化を防ぐため、地域ボランティアや町内会との協働の幅を広げ、無理なく関われる体制を整える。 協力をお願いしやすい仕組みを整え、関わり方の選択肢を増やすことで、継続的に協働できる環境をつくる。

学校の大きな方向に照らして ・ 教育目標「自ら学び、共に伸びる」の実現に向け、令和７年度の教育活動を踏まえ、令和８年度は「自ら学び、仲間とつながり、粘り強くやりきる児童」の育成を一層重視し、「粘り強くやりきる力」「人と関わる力」「考え、表現する力」の三つの資質・能力の深化を図り、学校全体で計画的かつ組織的に育成を進める。 ・ 生徒指導部・教務部・研究部・健康安全部が相互に連携し、統一的な指導の徹底、府中小学校の特色であり誇りでもある読書活動の充実、自ら学ぶ力の向上、生活習慣の確立などを通して、育成すべき力の循環的な向上を図る。また、異学年活動の再構築や体づくり運動の全学年実施など、府中小学校の特色を生かした取組を推進する。 ・ 地域および保護者との協働を一層推進し、コミュニティスクールとしての役割を強化することで、地域とともにある学校づくりを進める。 ・ 教職員の働き方改革を継続的に推進し、働きやすさと働きがいの両立を図りながら、子ども・教職員・保護者・地域が相互に信頼し、安心して学び・働き・協力できる学校の実現をめざす。



学校運営協議会を受けての来年度の重点・方針 生涯にわたり主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造する力を育むため、『自ら学び、共に伸びる』を教育目標に掲げ、児童の“自ら学び・仲間とつながり・粘り強くやりきる力”の育成と、教職員の資質向上および強い組織づくりを重点として学校経営を推進し、各部での取り組みを焦点化し教育活動を推進していく。
